

2016年4月18日

第2回事業所長の意見交換会

石油化学工業協会

経営層の保安への関与の強化として、現場に最も近い経営層である事業所長・工場長の保安に関する第2回意見交換会を、安全工学会と共催で大竹・岩国・周南地区にて下記の通り行った。

記

1. 日時 2016年4月18日(月) 14:00-17:00

意見交換会の後、懇親会実施

2. 場所 ホテルサンルート徳山(山口県周南市)

3. 目的

大竹・岩国・周南コンビナートにおいて保安の向上に日々努力している石油精製・化学系企業のトップにお集まりいただき、企業・業種の壁を越えて保安に関する意見交換を図ることで相互のレベルアップを図る。

4. 参加者

企業	JXエネルギー(株) 孫所長
	三菱レイヨン(株) 谷口事業所長
	(株)ダイセル 辻工場長
	東ソー(株) 田代事業所長
	出光興産(株) 前澤所長
	(株)トクヤマ 安達所長
	日本ゼオン(株) 佐屋工場長
	三井・デュポン ポリケミカル(株) 田中工場長
	昭和電工(株) 稗田事業所長
	三井化学(株) 永松工場長
安全工学会	岡山大学大学院 鈴木教授(安全工学会副会長)
石化協	唐津保安・衛生委員長
事務局	紙本氏(安全工学会)、岩間(石化協)、 各社関係者他

5. 内容

初めに、唐津委員長の司会により、自己紹介、意見交換会の趣旨、進め方などについての説明が行われた。

トップコミットメント/メッセージに関する工場トップとしての取り組みについての意見交換から始まり、次第に、事業所長・工場長としての人材育成に関する議論に進んだ。

(1) トップコミットメント／メッセージ

トップのコミットメント、事業所長としてのコミットメントの浸透と部長、課長の役割分担に今まで以上に努力。決定打はないが、事業所長として、自らの言葉で語り、保安安全が最優先であることを常に見せる。現場へのトップの関与は強化され、現場へ強い影響を与えている。

- ・ 社長が現場を訪れ、運転員の生の声を理解
- ・ 事業所長が従業員と密接に会話、保安・安全に強い関心を持っていることを常に示す
- ・ 保安安全の必要性の理解、トップダウンだけではやらされ感も残る

(2) 現場の課長の役割

トップの思い、方針がきちんと展開されるためには、現場の課長の育成が重要であり、課長の役割、仕事のあり方についての指導が重要。課長が疲れている現場は運転員も育たない。

- ・ 課長と従業員との対話を促進する指導、環境づくり
- ・ 課長に現場のリーダーとしての役割を果たしやすいように、製造課の大きさを一定レベルに制限
- ・ 製造課長は製造に専念できる体制…対事業部は部長、管理部門が対応
- ・ 事業部門の保安安全への責任の自覚…安全監査では事業部も工場側の席
- ・ 製造部門のモチベーションの向上…本社営業と運転員との対話

(3) 世代交代への対応と教育

急速に世代交代が進んでいる。知識教育、シミュレーション教育、過去事例の教育などを進めているが…危険を危険と感じる感性が大事。知識教育の前に意識を持たせることが大事。成長の動機づけには、ほめることが有効。

- ・ 知識だけでは役に立たない、実践できるレベルに高める訓練、考えるオペレーターの育成が大事
- ・ 原理原則の教育に加えてシミュレーション訓練、とくにシミュレーション訓練での対応をビデオに撮影し、互いに反省する手法が有効
- ・ 過去の事例教育、プロセスKYを繰り返し行うことで危険感受性の向上…しかし本当に理解しているかの評価が難しい
- ・ 知識に加えて、実践する意識の強さ、意欲、動機付け向上への取り組みが大事
- ・ 成長の動機付けにはほめることが有効、一方、責任感の欠如している人も出てくるので叱ることも必要、バランスが大事
- ・ 禁止側の違反者は業務から外し、反省を見極めてから復帰。場合によっては人事考課への反映も必要

以上